

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
樫本 雄三	選択	2	テクニカルライター、実務翻訳者			

授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。毎回授業内容に基づいた宿題を課し、翌週の授業でその説明を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

1. 実務翻訳の特徴/翻訳という仕事
2. 英文和訳の基本技術/自然な文章表現
3. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
4. 品詞の転換/無生物主語の処理
5. 順送りの訳、逆送りの訳
6. 分詞構文、関係詞構文、挿入構文
7. 長文の攻略
8. 和文英訳の基本技術/ライティングの3C
9. 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞/前置詞
10. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
11. 長い修飾語の処理
12. 無生物主語構文
13. 英文マニュアルの表現
14. 翻訳支援ツール(翻訳メモリなど)
15. ニューラル機械翻訳

授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。翻訳に必要な背景知識の説明も行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題の提出を求め、授業中にフィードバックを行う。定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌などの記事を教材にする。

参考図書

翻訳スキルハンドブック、駒宮俊友、アルク
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社
技術系英文ライティング教本、中山裕木子、日本工業英語協会

留意事項

ほぼ毎回課題を宿題として出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

英語文学を通して英語のさまざまな表現法を学び、また日本文化と比較しながら多文化を理解する。作家の読者に対する真摯なメッセージを読み解く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）、In（国際性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『高慢と偏見』を取り上げて研究する。この小説は、風習喜劇(the Comedy of Manners)に属し、主に社交界の軽薄・因習・愚行などを諷刺した機知に富んだ喜劇であり、ラブ・ロマンスが主筋であるが、その意味するところは深く、作家の鋭い洞察力が根幹を貫いている。授業では文学を通して古くて新しいテーマである人生について、そして、自己に誠実に真摯に生きるとはどのようなことなのか等についても考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDといった視聴覚教材も用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. Introduction
2. The Language of Jane Austen's time
3. 18-19世紀のイギリスの時代的・文化的背景
4. 18-19世紀のイギリス女性の社会的地位と人生
5. "Pride and Prejudice"を読む Ch.1-3/研究発表
6. "Pride and Prejudice"を読む Ch.4-6/研究発表
7. "Pride and Prejudice"を読む Ch.7-10/研究発表
8. Discussion
9. "Pride and Prejudice"を読む Ch.11-14/研究発表
10. "Pride and Prejudice"を読む Ch.15-18/研究発表
11. "Pride and Prejudice"を読む Ch.19-20/研究発表
12. Fact Files "Socializing in Regency England"
13. Presentation/レポート提出
14. Discussion
15. 試験

授業の方法

講義のほかに、文学、あるいはそこに内在する文化の諸要素について

て学生同士でも自由に発言し、問題提起や議論の発展が可能なように、教師・学生の双方向性の授業形態を予定している。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題：発表、質疑応答、ディスカッション、レポート作成（随時レポート作成を課し、授業中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。）
評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な意見交換を高く評価する。

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen, "Pride and Prejudice" CD付. London: Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

翻訳書："Pride and Prejudice"（『高慢と偏見』あるいは『自負と偏見』）の翻訳書は、岩波、新潮、ちくま各文庫本でも入手可能である。
参考図書：授業で随時、指示する。
参考資料：配布。

留意事項

授業で取り上げる『高慢と偏見』は多数の翻訳書があるので、可能なかぎり予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。